

音楽科 学習指導案

日時 平成18年11月15日(水) 5校時
学級 1年2組(男17名女17名 計34名)
授業場所 第1音楽室
授業者 菅原 志保

1 題材名 作曲をしよう

2 題材について

(1) 題材観

学習指導要領において第1学年では、A 表現の(オ)「短い歌詞に節付けしたり、楽器のための簡単な旋律を作ったりして声や楽器で表現すること」(カ)「表現したいイメージや曲想をもち、様々な音素材を用いて自由な発想による即興的な表現や創作をすること」の2つが創作の内容として示されている。本校では「音楽のよさや美しさを感じ取る能力」を身につけさせることが、意欲的に学習に取り組む生徒の育成につながると考え、研究を進めてきた中で、これらの創作の学習を積み重ねてきた。

本題材は、言葉の持つ自然な抑揚やアクセントによる高低を意識し、感情をこめた歌詞の音読をすることによって、自然な音高感を発見し、イメージを持って表現するというものである。これらの活動は、音楽のよさや美しさを感じ取る活動であり、意欲的に楽しんで「音楽を作る」という表現活動につながっていく教材である。また、リズムと旋律に、音楽の学習の中で重要な「模倣」という活動を取り入れることで、無から有を生み出す負担を軽減する工夫がなされている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、音や音楽に対して興味を持っており、これらに対しての多彩なイメージを持っている。また、イメージを表現しようとする様子にも意欲を感じる。

しかし、「なぜこの音楽が好きなのか」「なぜこの音楽を美しいと感じるのか」などの発問には「なんとなく」と答える生徒が少なくないことから、積極的に音楽のよさや美しさを感じ取ろうとする力は十分に身につけていない傾向にあると考えられる。特にリズムと旋律の流れに的を絞り、イメージと関わらせる学習をくり返し行うことで、音楽のよさや美しさを感じ取ろうとする姿勢が見られるようになり、進んで表現しようとする意欲につながっていくと考えられる。

また、グループ学習を通して、お互いの音に対する感性を認め合う活動を行っている。

(3) 指導観

曲を作る楽しさや喜びを経験させることに重点を置いている。しかし、無秩序な音を出すだけの活動にならないよう、言葉の抑揚や感情をこめて朗読したときの自然な音高感と、旋律とを関わらせる能力を養いたい。また、音楽を構成する上で必要な形式をいくつか限定して、旋律を作る手がかりを与えたい。また、音を当てはめる活動に終始しないよう、歌詞を生徒自身に作らせ、生活感情を歌うという点で、節を作るということが自分たちの内的な世界の表現であるという実感を得させたい。グループ活動では、創作の発想を認め合ったり、比較によっては自分の作品の特徴に気付かせたい。一人ひとりの発想が埋もれないよう、曲を前半と後半にわけ、2つをつなげて創作させたい。

読譜や理論に対しての苦手意識を軽減させるために、作品を記録する際の記譜方法は、図形楽譜を用いて、積極的に活動に関わろうとする意欲や態度を育てるものとする。

3 題材の指導目標及び評価計画

(1) 題材の指導目標

< 音楽への関心・意欲・態度 >

・歌詞の語感から受けるイメージと曲想を関わらせ、創作表現することに意欲的である。

< 音楽的な感受や表現の工夫 >

・歌詞の語感から受けるイメージと曲想とを関わらせた旋律作りを通して創作表現を工夫する。

< 表現の技能 >

・歌詞にふさわしい創作表現をするための技能を身に付けている。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観点別評価規準		表現の技能
		音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	
1	曲のリズムの模倣による短い詩作り	曲のリズムやリズム打ちに関心を持ち、リズムに合った歌詞を進んで作るようしている。	歌詞の語感を感じ取り、歌詞作りを工夫している。	
本時	自作の歌詞に旋律をつける	歌詞の語感から受けるイメージとリズムと旋律の働きと曲想をかかわらせた旋律作りと、記録の工夫に意欲的である。	歌詞の語感から受けるイメージとリズムと旋律の働きと曲想を関わらせた旋律作りと、記録の工夫をしている。	
3	お互いに発表する	創作曲を意欲的に発表したり、聴いたりしている。		表現の工夫を感じ取りながら、演奏の仕方を工夫して創作曲を発表することができる。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・歌詞の語感と、リズムと旋律との関わりを意識しながら、楽器を使って旋律を作ることができる。【音楽への関心・意欲・態度】【音楽的な感受や表現の工夫】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体の評価規準		C 努力を要する生徒への支援の手立て	評価場面(方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
音楽への関心・意欲・態度	歌詞の語感から受けるイメージとリズムと旋律の働きと曲想をかかわらせた旋律作りと、記録の工夫に意欲的である。	歌詞の語感から受けるイメージ、リズムと旋律の働きとを関わらせた旋律作りの構想に意欲的に取り組み、歌詞にふさわしい創作表現とその工夫に意欲的に取り組んでいる。	歌詞の語感から受けるイメージ、リズムと旋律の働きとを関わらせた旋律作りの構想にふさわしい創作表現とその工夫に取り組んでいる。	歌詞を感情をこめて読ませ、強く読むところや、音の高低を発見させる。	・音読をする(観察) ・学習カードに記入する(学習カード)
音楽的な感受や表現の工夫	歌詞の語感から受けるイメージとリズムと旋律の働きと曲想をかかわらせた旋律作りと、記録の工夫をしている。	学習カードに、歌詞の語感から受けるイメージ、リズムと旋律の働きと曲想とを関わらせた旋律作りが豊かに構想され、具体的に記述してあり、歌詞にふさわしい創作表現とその記録に様々な工夫をしていることが、作品から読み取れる。	学習カードに、歌詞の語感から受けるイメージ、リズムと旋律の働きと曲想とを関わらせた旋律作りの構想が具体的に記述してあり、歌詞にふさわしい創作表現とその記録の工夫が、作品から読み取れる。	実態に応じて、5線紙だけでなく、図形楽譜などの活用も可能とする。	・感情をこめた音読をする(観察) ・学習カードに記入する(学習カード)

(3) 研究との関わり

ア本時の基礎・基本

- ・歌詞を音読し、言葉の抑揚やアクセントを感じ取る。【音楽への関心・意欲・態度】
- ・感情をこめて朗読することによって生まれる自然な音高感に気付く。【音楽的な感受や表現の工夫】

イ定着を図る指導の工夫

- ・【反復・ドリル】リズム聴音をする。

ウ動機付けの工夫

- ・身近な言葉を提示し、アクセントや抑揚を発見しやすくする。
- ・感情をこめた音読と、そうでない音読とを比較させ、有用感を持たせる。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手立て 指導の留意点 支援	評価の視点 具体の評価規準(評価場面)	研究内容との かかわり
導入 10分	1 リズム聴音をする。	簡単なリズムパターンから出題する。 つまずきがある場合は、音符の長さや休符を強調した範奏を行う。		反復・ドリル
歌詞にあった旋律をつけよう				
展 開	2 言葉のアクセントや抑揚を感じ取る。	言葉を音読し、アクセントや抑揚を感じ取る。 範例を提示する。 アクセントや抑揚を見つけやすくするために、大きさに音読させる。	【関心・意欲・態度】 A 歌詞の語感から受けるイメージや、リズムと旋律の働きとを関わらせた旋律作りの構想に意欲的に取り組み、歌詞にふさわしい創作表現とその工夫に意欲的に取り組んでいる。 B 歌詞の語感から受けるイメージ、リズムと旋律の働きとを関わらせた旋律作りの構想に取り組み、歌詞にふさわしい創作表現とその工夫に取り組んでいる。	基礎・基本 音読
	3 歌詞の語感から受けるイメージと曲想との関わりを発見する。	歌詞を音読し、自然な語感から受けるイメージと曲想を発見する。 範例を提示する。 感情をこめた音読をさせる。		【有用感】

3 5 分	4 歌詞にふさわしい創作表現と記録の工夫をする。	歌詞にふさわしい旋律を作って記録する。 範例を提示する。 実態に応じて、5 線紙だけでなく、図形楽譜などの活用も可能とする。	【表現の工夫】 A 学習カードに、歌詞の語感から受けるイメージや、リズムと旋律の働きと曲想とを関わらせた旋律作りが豊かに構想され、具体的に記述してあり、歌詞にふさわしい創作表現とその記録に様々な工夫をしていることが、作品から読み取れる。 B 学習カードに、歌詞の語感から受けるイメージや、リズムと旋律の働きと曲想とを関わらせた旋律作りの構想が具体的に記述してあり、歌詞にふさわしい創作表現とその記録の工夫が、作品から読み取れる。	
終 末 5 分	5 学習内容をまとめる。	学習カードに、作曲の手順を自分の言葉でまとめさせる。		転写法